

書友をつくりましょう

公益財団法人文字・活字文化推進機構 理事長 肥田 美代子（童話作家）

「書友」は、お互いに面白い本を読んだら、すすめあう仲のことです。これは、文字・活字文化推進機構の福原義春会長の造語です。「あの本を読んだ？」「最近、読んだ本で面白いものがありましたか？」。福原会長は、こんな言葉のやりとりのできる友だち関係を「書友」と名づけたのでした。受賞校の和歌山県立古佐田丘中学校が校内ビブリオバトルを開催したり、地域図書館のビブリオバトルに参加したりする読書活動は、まさに「書友」を求める行動といえましょう。

ビブリオバトルは、自分が面白いと思った本を持ちより、5分間のスピーチでその本を紹介し、参加者全員で2、3分ディスカッションを行い、最後に「どの本が読みたくなかったか」を基準に、みんなで投票して、最多票を「チャンプ本」に選びます。仲間と遊ぶだけで、面白い本に出会えるのですから、楽しい読書ゲームといえましょう。それが、感受性の豊かな世代が集まる中学校で行われていることに、わたしは大きな意義を見出しています。「朝読」と連環することで読書の質の向上に役立つものとして評価しました。また図書館を利用した中学校3年間の読書歴の記録は、その生徒の生涯にわたる知的財産となりましょう。

兵庫県加古川東高等学校は、文系・理系を問わず、文芸活動に「挑戦」し、言葉による表現力の育ちを応援しています。コンクールへの応募は、読書感想文をはじめ読書体験記、小論文、人権作文、税の作文、新聞感想文、小説、童話など幅広いジャンルにわたっています。

挑戦者の生徒たちは、自分の読書力や表現力、思考力がその筋の目利きに評価されることによって、精神を鍛える好機となります。入賞の是非も大切なことですが、自分の興味や関心に応じて挑戦する生徒の心の姿勢を、わたしは大事なものとして評価します。

小学校や中学校のときは、読書に熱心だった子どもも、高校に入ると読まなくなるという説があり、読書調査ではそうした結果が散見されます。それだけに加古川東高校の多様な読書活動は、心に響いてくるものがあります。